
 学 会 記 事

第 38 回新潟糖尿病談話会

日 時 平成 21 年 2 月 28 日 (土)
午後 2 時～6 時
会 場 朱鷺メッセ 2 階
中会議室 201

I. 一 般 演 題

1 眼科患者における疫学的うつ病評価尺度 (CES-D) を用いた「うつ病」調査

安藤 伸朗・中村 裕介

済生会新潟第二病院眼科

【目的】わが国では、自殺死亡者が毎年 3 万人を超え国民的問題になっている。うち 3 割は「抑うつ症状」が原因とされている。一方視覚障害者に睡眠障害が多いというデータがある。睡眠障害は抑うつ症状と関連が深い。では視覚障害者に抑うつ症状が多いのか？今回は眼科手術患者を対象に、抑うつ症状を評価した。

【方法】疫学的うつ病評価尺度 (CES-D ~ Center for Epidemiologic Studies Depression Scale) を用いて、抑うつ症状の評価を行った。この評価法では、20 の設問にスコアが与えられ、合計スコアが 16 以上である場合、過去 1 週間の抑うつ症状亢進症状が深刻であることを示す。

対象は、平成 20 年 7 月 1 日から 14 日まで、当科で手術を受けた 60 名の術前患者（一部は術後も施行）。年齢は 23 から 95 歳、男性 28 名女性 32 名。眼疾患は、白内障が主で、ほかに緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症であった。

【成績】60 名中合計スコアが 16 以上の抑うつ症状亢進を呈したのは、7 名 (12 %) であった。CES-D による正常人の時点有病率は 2 ~ 3 % で

あり、今回の眼科手術患者の抑うつ症状亢進の割合は、有意に高率であった。

【結論】眼科手術患者に、抑うつ症状亢進が多いことが示された。眼科医は、眼科手術を受ける患者は抑うつ症状が亢進するリスクが高いという認識を持ち、そうした患者に対しては抑うつ症状のスクリーニングを日常的に行うことを考えに入れておく必要がある。

2 糖尿病外来における患者の自己管理の実態 低血糖の認識調査から

石川 裕子・植木静恵子・山本 美和

五十嵐智雄・佐々木英夫

新潟こばり病院糖尿病センター

【目的】低血糖に対する自己管理の実態を把握するためにアンケート調査を行い、指導上の課題を明らかにする。

【方法】インスリン・経口糖尿病薬を服用している通院患者 1533 名を対象に、「低血糖とその対応」についてパンフレットで説明し、1 ヶ月後、患者に聴き取り調査を行った。

【結果】

1) 回答者 536 名の中「パンフレットを読まない」24.4 %、「低血糖の症状が分からない」11.6 %であった。

2) 「低血糖の対応について知っている」89.7 %の中で「携帯しているものがある」が 67.2 %であった。

3) 「低血糖の症状がわからない」62 名中、分析出来た 34 名では、70 才以上が 73.5 %。大血管障害は 71 %であった。

【結語】

1) 加齢や大血管障害は理解力や記憶力を低下させる自己管理妨害因子と考えられ、家族の協力が必要である。

2) 低血糖対策の知識はあるが実行を伴わない患者に対しては、患者自身が原因を考えていくような指導法が必要と考えられた。